

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2年次生 黒田 源

1. はじめに

私は、今回、一般社団法人日本薬学生連盟(the association of pharmaceutical students' -Japan=APS-Japan)が企画した、インターナショナルメディカルツアー(英語略称:IMT)にスタッフとして参加しました。参加者はスタッフを含め、計17名でした。スタッフは、数回にわたりミーティングをし、株式会社H. I. S 様のご協力の下、インターナショナルメディカルツアー開催に向けて約1年の準備を行いました。滞在先は、東南アジアのインドシナ半島西部に位置する、ミャンマー連邦共和国に決まりました。以下は今回のツアーの簡単な概要です。

【滞在先】：ミャンマー連邦共和国(主にヤンゴン)

【期間】：3月21日～3月27日

【目的】日本とは異なる海外の医療施設の見学とボランティア活動を通して、現地(発展途上国)の医療を学ぶ



主にヤンゴン市内を中心に活動しました。

基本的にバスで移動しましたが、

所々徒歩で巡りました。

右の写真に写っているのは、今回、ツアーガイドとして同行して頂いた Myo Minn さんです。ガイド中、ミャンマーの社会情勢や文化、日本との交友関係について教えてもらい、わからない事があれば通訳していただき、より充実したスタディツアーにして頂きました。この写真は、Myo さんへ、参加者・スタッフ全員で感謝のメッセージを書いた寄せ書きを渡したときのものです。



～ツアー概要～

日付	都市名	時間	交通機関	スケジュール	食事
《1》 3/21 (火)	東京(成田)発 ヤンゴン着	11:00 16:30	NH813 専用車	✈ 空路、ヤンゴンへ 🚗 到着後、ホテルへ 【ヤンゴン泊】	× × ×
《2》 3/22 (水)	ヤンゴン	9:00 11:00 12:00 13:30 15:00	専用車	🍳 ホテルにて朝食 JICA ミャンマーオフィス訪問 ローカル薬局 (AA Pharmacy) 【昼食】 ヤンゴン総合病院視察(新館/旧館) 【ヤンゴン泊】	朝 × ×
《3》 3/23 (木)	ヤンゴン	10:00 12:30 14:30	専用車	🍳 ホテルにて朝食 パンライン国際病院訪問、病院内薬局見学 【昼食】 ビクトリア病院内薬局視察 【ヤンゴン泊】	朝 × ×
《4》 3/24 (金)	ヤンゴン	9:30 11:00 12:00 15:30	専用車	🍳 ホテルにて朝食 AAR JAPAN 視察 ヤンゴン市内環状線体験 ミャンマープラザ視察 ミャンマープラザ内にて各自昼食 輸血センター 【ヤンゴン泊】	朝 × ×
《5》 3/25 (土)	ヤンゴン	10:00 13:30 14:30 15:30	専用車	🍳 ホテルにて朝食 ドリームトレイン孤児院訪問 ヤンゴン 中心部・植民地建物見学 ボージョーアウンサンマーケット 【ヤンゴン泊】	朝 × ×
《6》 3/26 (日)	ヤンゴン発	終日 21:45	専用車 NH814	🍳 ホテルにて朝食 ご出発までフリータイム ※ホテルチェックアウト 12時まで 🚗 専用車にて空港へ ✈ 空路、帰国の途へ… (乗継) 【機内泊】	朝 × ×
《7》 3/27 (月)	東京(成田)着	06:50		空港到着、通関後、解散	

2. 訪問した主な施設について

・ JICA (Japan International Cooperation Agency)

こちらの施設では、実際にミャンマーの情勢や社会背景などの説明を受けた上で、ミャンマーの医療、特に薬の分野について教えて頂きました。ミャンマーでは偽薬が出回っているという話は、衝撃でした。日本ではまずありえないことが海外では起こっていると感じた瞬間でした。薬は基本的に薬局と病院でしか購入できないと思っていたので、ヤンゴン市内で路上販売をしているのを目にして驚きました。



・ AA pharmacy

日本の薬局とはどう違うのか？という疑問から、現地の薬局を訪問しました。なんと、ミャンマーでは薬剤師の資格が国に認可されておらず、薬局内にいる店員は、全員登録販売者でした。薬の知識に関しては大学で習得済みだという方がほとんどでしたが、中には薬の知識を口伝えだけで教わったという店員もいました。日本では絶対にありえないことなので、驚きの連続でした。また、ミャンマーでは薬の利用者が多い故に、薬局の数も多いとの話を聞きました。薬はリスクを伴うという事を頭に入れた上で、しっかりとした服薬指導を行う指導者が必要だと感じました。



・ ヤンゴン総合病院

日本の病院と違い、ミャンマーの病院には窓ガラスがほとんどなく、衛生的にあまりよくないと感じました。施設内では、手術で使用する白衣類が太陽の日差しの下で乾かされている、疾患によっては薬が処方されない、男女別に病室が分かれており院内環境の格差があるなど、日本の病院との違いを確認しながら見学させて頂きました。その後、副院長から、病院ではどのような治療を行っているのかについてプレゼンテーションを行って頂きました。普段なかなか聞けない情報を知ることや質問することもできたので、今後の勉強にも活かしていこうと思います。



・パンライン国際病院

国際病院とあって、現地の人々以外にも、さまざまな国籍を持つ人が病院内にたくさんいらっしゃいました。こちらでも施設見学をさせていただき、プレゼンテーションをしていただきました。特に、調剤室の見学は大変貴重な機会でした。日本では見たこともない薬や、使用禁止薬物も棚に置かれていました。参加者・スタッフ全員から質問が殺到し、予定時間をオーバーしてしまいましたが、めったに見ることのできない海外の調剤室を見学することができてよかったです。



・LEO Medicare (ビクトリア病院内のクリニック)

こちらでは、ミャンマーの病院の中で、唯一日本人医師と看護師の方が勤務されているという情報を入手したのがきっかけで、アポイントを取り、訪問することができました。集合写真の中央に写っておられる日本人医師にお話を伺うと、主に日本人患者の診察を行っているらしく、なんと外来受診が24時間可能とのことでした。これなら、いつ怪我をしても安心と思っていた私ですが、医療費が日本よりも高いことがわかりました。一昔前までは、ミャンマーでは医療費は無料だったそうですが、時が経つにつれ自己負担の範囲が拡大し、診察・手術・室料など徐々に有料化していったそうです。



・輸血センター

こちらの施設では、主に施設内の見学と、どういった活動を行っているのかについてのお話を聴きました。他の訪問した施設に比べると少し専門的な知識が必要な部分があり、分かりづらい部分もありましたが、献血のお話になると皆目の色を変え、食い入るように話を聴いていました。

ミャンマーは、日本と比べ献血にとっても熱心で、一回につき、450mlの血液を採血します。日本と比べ50mlも多く採血しているの、副作用が出るのではないかと私は思いました。

ちなみに、日本では、女性は体重40kg以上、男性は45kg以上でかつ年齢が16歳～69歳であれば献血が可能です。ミャンマーでは、体重が女性45kg以上、男性50kg以上でかつ18歳以上であれば献血が可能です。



・AAR Japan (Association for Aid and Relief, Japan)

こちらの施設は、「難民を助ける会」が立ち上げた職業訓練学校で、障害者が社会的・経済的に自立できるよう支援していました。職業訓練として、①洋裁コース ②PCコース ③理容美容コースの3つのコースが受講できます。生徒を指導する先生の大多数が、この学校の卒業生だったせいかな生徒との距離が近く、とてもアットホームな環境でした。また、代表者3名の在校生からのお話を聴いた際、全員共通して「家族のために自立したい」とおっしゃっていました。単に知識や技術を与えるだけに留まらず、人の心も育てている素晴らしい施設だと全体を通して感じました。日本にも事務所があると聞いたので、いつか伺ってみたいと思います。



・Dream train

Dream train は、中学生・高校生を中心に、子供達が将来社会に出て苦労せず、自立できるよう養成する施設でした。

孤児院という認識で訪れたのですが、学生寮もあったので、どちらかという中高一貫校のような印象を受けました。こちらの施設では、子供達に薬の大切さと薬の正しい飲み方を伝えるため、人形劇を行ったり、日本の伝統文化である折り紙を使って遊んだりし、大変貴重な時間を過ごすことができました。また、Dream train様から昼食を一緒に取りませんかというご提案があったので、お言葉に甘えて、先生方・子供達と一緒に昼食をとりながら、会話を楽しみました。子供達の日本語が想像以上に流暢だったのがとても印象的でした。



3. その他 まとめ



海外の医療施設見学・啓発活動以外にも、ミャンマーの観光地を巡るなどミャンマー文化を堪能しました。天候にも恵まれたおかげで、いろんな場所に訪れることができました。上に載せている写真以外にもまだまだ載せたい写真がたくさんあるのですが、収まりきれないので省略させていただきます。6日目のフリータイムには、各自別行動をとり、それぞれでミャンマーを楽しむことになりました。私たちのグループは、ミャンマーの観光名所であるシュエダゴン・パゴダとダラヤというスラム街を散策した後、水上レストランで昼食をとり、限られた時間の中で出来るだけ多くの場所を巡りました。

4. 最後に

イベントの企画から始まり、滞在先で何を学びたいかを考えたり、訪問先にアポイントメントをとったり、スケジュールを整理したりするなど、約1年間の準備を行いました。6泊7日という短い期間でしたが、たくさんの事を経験させて頂きました。はじめは、スタッフのメンバーが西日本では私一人だったので、すごく不安な気持ちを抱いていました。そんな状況だからこそ、自分自身がアクションを起こさなければと思い、何回かスタッフと積極的に顔を合わせていくうちに打ち解けていき、抱えていた不安も消えていきました。そして、企画が進むにつれ、不安感は“早く開催日が来ないかな”という期待感に変わっていきました。それほど、充実した会議が行えていたということだと今では思います。今回の滞在先のミャンマーでは、スタッフとして力不足なもありましたが、参加者・ツアーガイドの方・現地の方々のお力添えのおかげで、無事ツアーを終えることができました。来年もスタッフとして参加します。また違った発見ができそうでとても楽しみです。報告書を読まれた学生の方々、ぜひ興味を持たれましたら、気軽にお声がけ下さい。今回、このようなツアーに参加するきっかけを作ってくださった、国際交流基金助成事業担当の学生課の皆様へ、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

